

森林やまがた

No.184

2019.11



山形県森林協会は、『美しい森林づくり推進国民運動』を推進しています。



目次

第29回山形県林業まつり	2
やまがた美しい森林づくり推進大会開催	3
山形県再造林加速化対策会議の開催	4
山形県庁ロビーの内装木質化	4
やまがた森林ノミクス県民会議	5
やまがた緑環境税活用事業の紹介	6
フォレスト通信	
「コロラド研修記」-アメリカ農林業視察研修から-	7
特集 新たな森林管理システム	8
みどりのページ	
郷土の名木・古木等保全事業の実施について	10
緑の募金公募事業の交付決定について	10
普及情報	
高性能林業機械フェラバンチャーザウルスロボによる 森林技術者等技術向上研修会の開催	12
森の人紹介	
伊藤信一さん・金野 伸さん	13
林道二口線が全線開通しました!	14
むらやま版木育推進事業	14
最上ぎのこの振興に向けた取組み	15
「最上地域森の感謝祭2019」を開催	15
おきたま森の感謝祭2019を開催	16
新たな森林施業の提案と取組み	17
列状間伐で更なる効率化	18
丸太価格・製材品価格の推移	18

第二十九回 山形県林業まつり



今年も大盛況でした!

県民の皆様には森林の働きや木材の良さ、森の恵みのすばらしさを実感し、体験していただくため、第二十九回「山形県林業まつり」が、10月19・20日の二日間、天童市の山形県総合運動公園第2南駐車場において開催されました。

今年も「第六十九回山形県農林水産祭」として「山形県林業まつり」と「秋の食彩まつり」が同時に開催され、各ブースでは県産木製品や県産きのこの展示販売のほか、子どもから大人まで参加できる楽しいイベントが行われました。

今年も、初日があいにくの雨でし

たが、2日目は天気も回復し来場者数は2万9千人と大盛況となりました。

19日正午から、「農林水産祭合同オープニングセレモニー」として若松副知事による開会宣言や主催者らによる丸太カットが行われました。



主催者らによる丸太カット

さらに、「山形県木材産業協同組合」による子ども上棟式と祝い餅まきには多くの子どもたちが集まり、にぎわいをみせていました。今年も子どもに限定して餅まきを行ったことで、多くの子どもたちに、上棟式の意味を理解してもらうことができました。

また、恒例の丸太切り競争、幼児

積み木競争や青空木工教室において、たくさん子どもたちが楽しそうに木と触れ合う光景が見られ、多くの方々に木の持つ温もりを感じてもらうことができました。



子ども上棟式

木造建築のブースでは、県産木材を使用した迫力のある住宅構造躯体が多数展示され、来場者の皆様に直接見て触れていただくことで、木のある暮らしの良さを身近に感じてもらえました。

高性能林業機械展示コーナーでは、山形県立農林大学校の学生によるハーベスタの実演が行われました。二日間学び、習得した技術が披露される今後の就職先での活躍が期待される場所です。

その他にも、旬のきのこを使ったおいしい山形の食品販売、木工クラフトやきのこ植菌体験など、県産木材をはじめとする「森の恵み」を実感していただける機会になりました。



きのこの植菌体験

今年で二十九回目の開催となった林業まつりは、毎回多くの方々においでいただける県内有数のイベントとして定着しております。今後とも、県民の皆様には森林・林業・木材産業の重要性についてご理解いただくとともに、木材の良さや森の恵みを実感していただけるよう、関係者の皆様と運営してまいりますので、皆さまのご協力をよろしく願います。

〔県森林ノミクス推進課〕

やまがた美しい森林づくり推進大会開催

(第66回山形県林材業年次大会)



10月19日(土)、山形県総合運動公園において「やまがた美しい森林づくり推進大会」(第66回山形県林材業年次大会)が、約200名の参加者を得て開催されました。

◆大会
白鷹町長の佐藤大会副会長の開会の言葉が始まり、細野大会会長の主催者挨拶、各林業団体から寄

せられた多くの要望・提案事項の主旨説明、大会決議の提案と進められました。

提案事項については、松田大会副会長からその概要について一括して説明があり、満場一致で原案どおり承認されました。

また、安部大会副会長が大会決議を提案し、提案への取組み、予

算確保要請について満場一致で決議されました。

続いて、若松副知事(山形県知事代理)、森屋研究指導課長(林野庁長官代理)、舟山康江参議院議員、金澤県議会議員から祝辞があり、盛会裏に終了しました。

◆提案事項

多くの林業団体から提案された森林・林業・木材産業全般に亘る諸課題から、重点課題を取上げた内容で、次のようになっております。

1 「やまがた森林ノミクス」の推進

地域の森林資源を活用する「やまがた森林ノミクス」を推進し、豊かで活力ある地域社会を構築するため、次の事項を提案します。

(1) 森林境界の明確化や森林施業の集約化、高性能林業機械等に対応した路網の整備を早急かつ計画的に推進するとともに、増加する主伐後の再造林を推進し、「伐って、使って、植える」という形の資源循環利用を促進すること。

(2) 平成31年4月から森林経営管理制度(新たな森林管理システム)が施行されたが、その制度を担う市町村の実施体制への支援を図ること。今年創設された森林環境税及び森林環境譲与税については、これまでの森林施策では対応できなかった森林整備等に資するものとされていることから、既存の森林整備事業等については、これまでに十分に予算を確保すること。

(3) 地域林業の担い手である森林組合や林業事業体の育成強化を図るとともに、高い生産性と安全性を確保していくため、専門的かつ高度な知識と技術・技能を有する現場技術者の育成を積極的かつ計画的に進めること。

(4) 木材の加工流通を担う木材産業の育成強化を図るとともに、木材加工流通施設や木質バイオマス関連施設の安定した稼働を

下支えする支援策を打ち出すこと。また、特用林産物の生産振興策を強化し、山村地域の活性化を図ること。

(5) 県産木材の需要を拡大するため、非住宅分野や公共建築物等における木材利用の促進を図るとともに、林工連携による森林資源を起点とした新たな技術や製品の開発を促進すること。

(6) これらの取組みを総合的に推進するため、「林業成長産業化総合対策」や「やまがた森林ノミクス関連予算」等の拡充・強化を図ること。

2 災害に強い多様で健全な森林づくりの推進

森林の持つ公益的機能を持続的に発揮させ、地球温暖化の防止と安全安心な国土づくりを進めるため、次の事項を提案します。

(1) 頻発している集中豪雨や地震等による山地災害から県民の生活と暮らしを守るため、治山事業・森林整備事業等による災害に強い健全な森林づくりを計画的かつ積極的に推進すること。

(2) 「やまがた緑環境税」を活用した荒廃森林の整備や森林資源の循環利用を計画的に進めるとともに、県民全体で健全な森林づくりや森林資源の利活用を進める取組みを一層推進すること。

(3) 森林の公益的機能を確保するため、水源林の整備や森林整備法人(県林業公社等)による森林整備を促進するとともに、松くい虫、ナラ枯れ被害等を防止するための森林病虫害対策をより一層推進すること。

(4) 健全な森林づくりや森林資源の利活用を推進するため、国・民有林の連携を強化するとともに、低コスト施業技術や森林資源の生産利用技術、公益的機能を高める森林整備技術等の開発・普及を促進すること。

◆おわりに

本大会で採択された提案事項については、国・県等に提案・要望してまいります。(山形県森林協会)

「伐木等の業務に係る特別教育の補講(追加講習)」を受講してください



労働安全衛生規則の一部を改正する省令及び安全衛生特別教育規程の一部を改正する告示がそれぞれ公付され、現在、チェーンソーを用いて伐木等作業を行っている者は、伐木等の業務に係る特別教育の補講(学科と実技で2.5時間)を令和2年7月31日までに受講しないと、それ以降にチェーンソーを用いた伐木等作業に就けなくなります。

このため、当支部では本年11月と12月に林災防会員を対象に補講を実施します。林災防会員以外の方は令和2年1月から補講を受講できるように準備しております。

お問い合わせ

林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部

TEL:023-666-4810 FAX:023-666-4811

山形県再造林加速化対策会議の開催について

◆はじめに

県では、県産木材の需要増加が見込まれる中、利用期を迎えた人工林の主伐を進めるとともに、森林の公益的機能を維持し、資源の循環利用を確保するため、伐採跡地への確実な再造林を推進しています。

平成30年度の再造林率は前年度の44%から53%に伸びていますが、目標とする再造林率100%に向け、さらに取組みを加速させるためには、伐採事業者と造林事業者の連携・協力により、伐採前の段階で森林所有者に再造林を働きかける取組みを促進していく必要があります。

このことから、伐採及び造林事業者が情報共有を図るとともに、森林所有者の再造林への意欲向上や主伐・再造林の一体的かつ計画的な実行などに連携して取り組んでいけるよう、伐採及び造林事業者と森林所有者等を委員とした「山形県再造林加速化対策会議」を設立し、8月5日に第一回会議を開催しました。

◆開催概要

会議では、林業事業体を訪問し、聞き取りした再造林の取組みに関す

る問題等を踏まえ、皆伐・再造林の基本方針と現状や、再造林率100%に向けた課題解決の取組みの方向性等について協議を行いました。委員からは、「再造林のモデル団地を作って取り組んでいきたい、森林経営計画の作成方法について検討が必要、造林適地を見極めた再造林が重要、市町村・森林組合・林業事業体がお互いの得意分野を理解・協力して対処していくことが必要」など、多くの意見をいただき、今後の取組み展開に活かしていく予定としていきます。

◆おわりに

今後、県では、山形県再造林推進機構と連携し、事業者を対象に、伐採事業者と造林事業者が連携・協力した取組み手法に関する研修会等を開催し、再造林に向けた事業者の協力体制の強化を図っていきます。



〔県森林ノミクス推進課〕

「山形県庁ロビーの内装木質化」について

◆コンセプト

県では、展示効果の高い公共・民間施設の木造化・木質化を推進し、県産木材の良さを周知することにより県産木材の利用拡大を図る取組みを行っています。

このたび、山形県庁舎知事部局棟1階ロビーについて、山形県産スギ材を使用して内装を木質化し、山形の木質化のモデルとして整備しました。

◆木質化の特徴

内装の木質化に当たっては本県の様々な特徴を盛り込んだ仕様とし、スギ縦格子を基調に配置

- 正面に山形県を形どったスギ板プレートを設置し、その上に35市町村の木を配置するとともに、吹抜け壁に、県の花、魚、木、獣、鳥をモチーフにしたマークを取付け、県のシンボルをPRしました。
- ロビー入口の3本の柱については、縦格子と横格子により木質化し、ブラケット形状の有機EL照明を設置しました。

- 西側の吹抜けには、中心に県のマークを配置し、その両側に、組子細

工を施した森林ノミクスマークを配置しました。

●東面の受付カウンターは、角材をランダムに重ねたデザインとし、「MOKUKA」のショーケースで装飾しました。情報掲示板も取り外しが可能な木製のカバーとし、階段部分は支柱と手摺を木質化しました。今後、この県庁ロビーの取組みを内装木質化のモデルとして、建築物の木造化・木質化の推進に取り組んでいきます。

〔県森林ノミクス推進課〕



ロビー正面（北側）

やまがた森林ノミクス県民会議について

◆はじめに

県は、平成25年の「やまがた森林ノミクス宣言」以降、森林資源を活用し地域活性化につなげる取組みを積極的に展開し、着実に成果をあげているところですが、森林資源の循環利用とそれらを担う人材の育成等の取組みについて一層の推進が必要となつていきます。さらに政府においては、林業成長産業化と森林資源の適切な管理の両立を目指し、今年度から新たな森林管理システムや森林環境譲与税が導入されるなど、森林・林業をとりまく環境が大きく変化しております。

◆推進体制を拡充

このようななか、本県の豊かな森林資源を有効活用する「やまがた森林ノミクス」の様々な課題について、幅広い視点で総合的な議論を行うため、その推進体制として設置していた「やまがた森林ノミクス推進会議」と、やまがた環境税を活用した事業を評価・検証する環境エネルギー部所管の「やまがた緑県民会議」を一体化して、新たに「やまがた森林ノミクス県民会議」を設置しました。

会議には、国、市町村、学識経験者に加え、森林・林業・木材産業をはじめ、建築、観光、工業関係の事業者と、教育、消費生活の関係者や県民の皆様からの公募委員に参画いただいております。知事を議長とする県民総参加による推進体制が整いました。

◆第一回会議を開催

令和元年8月9日、県庁において各分野の委員21人と関係者による第一回目の会議が開催されました。会議では、吉村知事の挨拶のあと、県から森林ノミクスに関するこれま

での取組みについて説明し、意見交換を行いました。委員からは、「林業労働力の確保」、「リスク覚悟の新たな挑戦ができる環境づくり」、「県産材の競争力・販売力の強化」、「木造木質化の推進」について、また、「木育の重要性」や「森林環境譲与税とやまがた環境税の制度の周知」など、川上から川下まで様々な視点から意見が寄せられました。



◆おわりに

今後は、会議での意見を踏まえ、「やまがた森林ノミクス」のさらなる加速化に向けて施策を展開してまいります。

〔県森林ノミクス推進課〕

「やまがた森林ノミクス」と共調しながら
森林整備に取り組んでいます!!

山形県森林ノ整備事業共同組合

理事長	高橋 菊男	〔有〕高菊林業	副理事長	上妻 嘉光	〔上妻林業〕
専務理事	和泉 誠七	〔(同)イズミ〕	理事	庄司 和敏	〔(株)庄司製材所〕
理事	荒生 周一	〔荒生木材(有)〕	理事	矢沢 敏之	〔(株)北越マテリアル〕
理事	横山 顕規	〔(株)旭林業〕	監事	高橋 義見	〔(有)高橋林業〕

〒990-0829 山形県山形市五日町1番12号

TEL 023-645-5098 FAX 023-645-1892 E-mail: izumisey@yahoo.co.jp

やまがた緑環境税活用事業の紹介

◆はじめに

県では、県民の豊かなみどりを守り育む意識の醸成を図るため、やまがた緑環境税を活用し、様々な取組みを進めています。

今回は、県民が森や自然の大切さを学び、森や木の文化を見つめ直す活動である「やまがた木育」と、「森のホームステイ」の活動を御紹介します。

◆やまがた木育の活動

- 1 期日 10月4日(金)
- 2 場所 放課後児童クラブ「児童クラブまどか」(米沢市)
- 3 参加者 小学生等 計30名
- 4 内容 やまがた木育ブックの

解説、木製スプーンづくり
やまがた木育ブックは、小学生に木材利用や森林の多面的機能等について説明するためのパンフレットです。また木製スプーンづくりは、粗削りされた県産材のホオノキを紙やすりで削って仕上げる木工クラブです。

実施に当たっては、置賜総合支庁森林整備課からも協力いただき、子どもたちが熱心に作業に取り組み充実したプログラムとなりました。

普段は見られない子どもたちの一面に、職員の方々も驚いた様子でした。



木製スプーンづくり

◆森のホームステイの活動

竹ポットにどんぐりを植え、家庭や学校、会社などで苗木を育てていただき、その苗木を森に返す体験として、「森のホームステイ」を様々な場所で行っています。

9月28日(土)に、やまがた絆の森づくり活動として、「あいおいニッセイ同和損保の森(西川沼山)」で森づくり活動が行われ、その中で森のホームステイを体験していただきました。当日は約100名が参加し、参

加者自身の手でブナとミズナラの竹ポット苗木づくりに取り組みました。今回作成した苗木は家に持ち帰って1年間育てた後、来年の森づくり活動の中で、植樹して山に返す予定です。参加者からは「苗木を大切に育てて、ぜひ森に返しにきたい」という声がありました。



竹ポット苗木の作成

◆おわりに

今後は、やまがた木育や森のホームステイの活動を通して、引き続き多くの方々に森づくり活動等に御参加いただき、森林や木材に親しみ、その良さを実感していただきたいと思えます。
〔県みどり自然課〕

土砂災害を防止・軽減するには
「治山施設」が必要です
森林を整備・利活用するには
「林道施設」が必要です

山形県森林土木建設業協会 会長 永井 敏行

◇事務所：山形市あさひ町16-21 TEL(023)632-3893 FAX(023)632-5454

「コロラド研修記」—アメリカ農林業視察研修から—

◆2年生全員がコロラド州の農林業について学ぶ「アメリカ農林業視察研修」の実施も今年で3回目となり、今回はさらに充実した研修となりました。

◆マウンテンキャンパスでの交流

コロラド州立大学(以下「CSU」)のマウンテンキャンパスは、ロッキーマウンテンの山麓、標高2700mに位置し、学生の調査・研究のほか、一般の方々も森林をはじめとする自然環境を学ぶ施設です。今回は、今年の6月に農林大学校を訪れたCSUの学生(前号で紹介)とともにこのキャンパスに1泊し、雄大なロッキーマウンテンの裾野に広がるロッジポールパインやアスペンをはじめとする森林や野生動物などについて学びました。コロラドでは、今、山火事被害とパインビートルによるロッジポールパインの枯損被害が深刻で、施設周辺の周辺には25年前に発生した山火事跡地に成立した二次林が広がるとともに、枯損木が目立ちます。それでも、この広大な自然環境やムース、エルクなどの野生動物から成る森林生態系は、この雄大なロッキーマウン

の積雪が育む水資源に支えられていることは間違いありません。夜は、満天の星空のもと、焚火を囲んで楽しい時間を過ごしました。



4000m級のロッキーマウンテンを背景に

◆フォレストサービスマン

コロラド州フォレストサービスマンは、CSUに属する民有林の経営・管理を指導する機関で、苗畑では、民有林に供給するロッジポールパインやポンドローサパイン、アスペンやヤナギ類などを育成するほか、種子の保存も行っています。ここでの苗木育成の方針は、「自然環境と人間、野生動物とのバランスを保つ森づくり

のための苗木育成」とのこと。コロラドの森林事情を反映した苗づくりなのかもしれません。

研修ではこのほか、開発から守るオープンスペース政策の一環として設置されたボルダールの自然公園シャトーパークやCSUのバイオマスプラントを視察しました。



ポンドローサパインの苗木

◆コロラドから山形の森を想う

ロッキーマウンテンに抱かれた雄大な森林と自然環境、一方で山火事や病虫害の現状を目の当たりにし、山形の冷温帯落葉広葉樹林やスギ人工林を思い浮かべながら、改めて恵まれた森林資源の大切さと将来に引き継ぐことの責任感を痛感しました。

また、CSUとの交流をさらに深めたことも、今回の研修の大きな成果です。「お互いの国の森林を見つめ、自国の森林を再評価する」。今後も、両校のより良い関係を築いていきます。
〔山形県立農林大学校〕

—全国食用きのこ種菌協会会員—

〒999-7757
山形県東田川郡庄内町払田字村東17-2



株式会社
河村式種菌研究所

お問い合わせは：電話 0234(42)1122(代)
FAX 0234(42)1124

東北みちのくの珍味

トンビマイタケ菌床
まいたけ 椀木

庭先でも栽培
できます。



きのこ種菌 しいたけ・なめこ・ひらたけ・むきたけ・かのか・くりたけ他

特集 新たな森林管理システム

◆はじめに

今年度から施行された森林経営管理制度（新たな森林管理システム）の推進を図るため、県と市町村、林業関係団体で組織する「山形県森林管理推進協議会」の初会合が、9月11日に山形市内で開催されました。

また、同日に市町村や林業事業者等を対象にした「森林経営管理制度研修会」を、林野庁森林利用課森林集積推進室の森林集積企画班長を講師に迎え開催しましたので、ご紹介いたします。

◆山形県森林管理推進協議会の創設

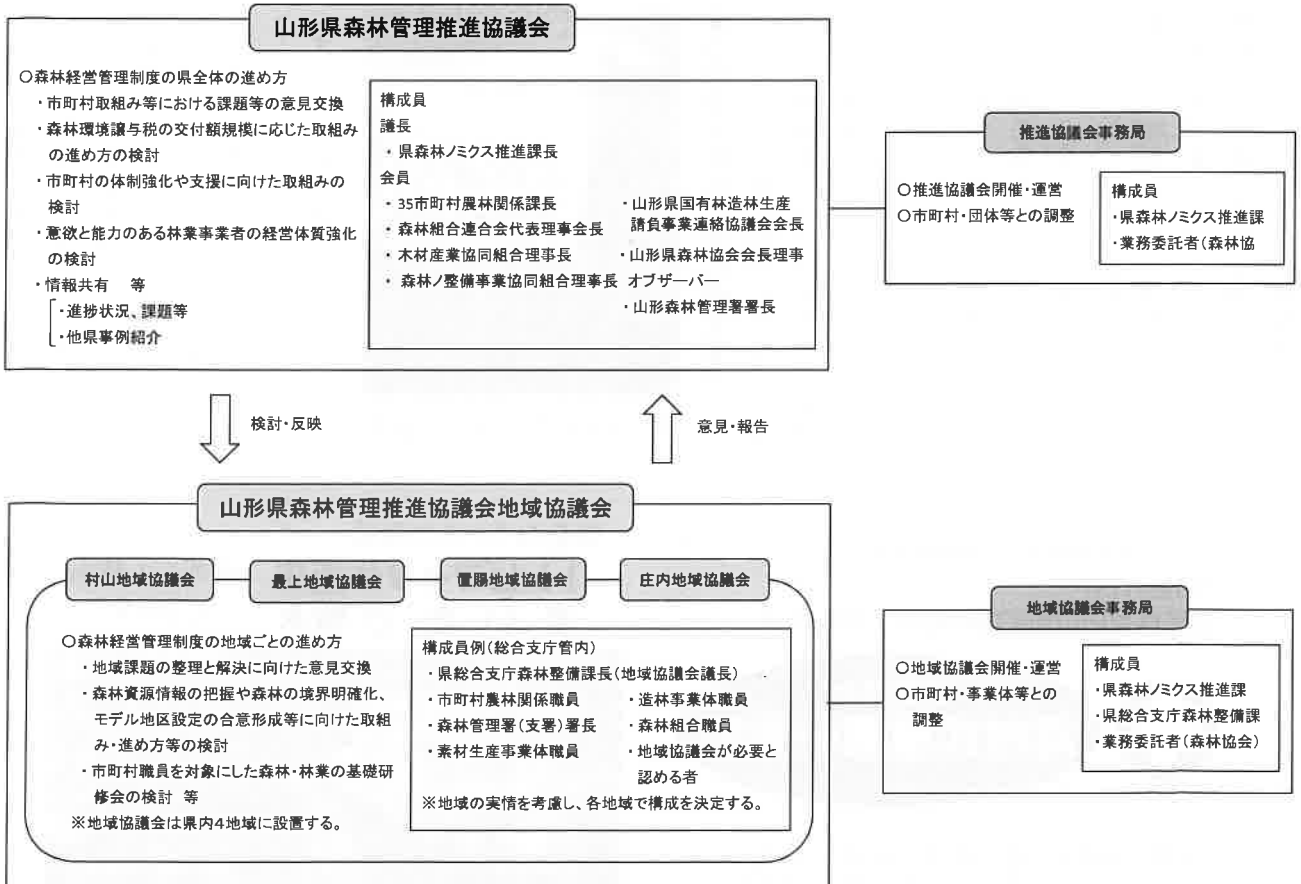
県では、新たな森林管理システムの円滑な実施を目的に、情報共有や意見交換、関係者間の合意形成を図るための「山形県森林管理推進協議会」（推進協議会）を創設しました。

森林経営管理法が制定されて以降、市町村から制度運営に当たって、定期的な情報共有の場の創設について強い要望を受け、このたび推進協議会を設置することとなりました。



森林経営管理制度等について意見が交わされた

組織としては、県全体としての市町村の取組状況や課題を整理し、今後の進め方や支援策、受け皿となる林業事業者の育成などを協議、意見交換する推進協議会と、県内四地域（村山、最上、置賜、庄内）において地域課題の解決に向けた議論や具体的な取組み・支援策などを検討する地域協議会で構成されます（図）。



当日の会合では、新たな制度の概要や市町村の進捗状況を報告するとともに、今後の進め方として、まずは森林所有者への意向調査に向けた準備作業を焦らず、じっくりと進めていくことが確認されました。

◆最上地域協議会を設立

推進協議会の開催を受けて、地域協議会が順次開催されますが、先陣を切って10月8日に最上地域協議会が開催されました。

当協議会は、最上総合支庁、管内市町村のほか、造林事業者からは最上広域森林組合、金山町森林組合を、素材生産事業者からは有限会社高菊林業、有限会社小関興業を、アドバイザーに山形森林管理署最上支署を迎え構成されています。

今回は、初会合ということもあり、事務局から設立の趣旨や支援体制等が説明された後、市町村の現状を把握するため、各市町村から現在の取組状況が説明されました。状況としては、今年度中に意向調査を実施する予定の市町村がある一方で、これから意向調査の事前準備を考えていく市町村に分かれる印象でした。意見交換では、市町村から森林組合への協力を求める声が多くあり、

両組合からは、施業履歴情報の提供など全面協力することが確認されました。



最上地域協議会の様子

最上地域協議会では、年度内にもう一回開催し、具体的な地域の課題解決や来年度予算の対応などを協議する予定です。

また、協議会終了後、総合支庁担当者による市町村担当者向けの森林・林業の基礎研修会が行われました。

◆森林経営管理制度研修会開催

推進協議会事務局では、推進協議会を開催した同日午後より、市町村及び林業事業者等を対象とした森林

経営管理制度の研修会を開催しました。講師として、林野庁森林整備部森林利用課森林集積推進室の三間知也課長補佐をお迎えし、参加者約80名を前に新制度の概要や考え方、他県の取組状況等について熱心に講義していただきました。

この制度は、適切な森林の経営管理がなされていない森林について、市町村が森林所有者の意向を把握し預かったうえで、意欲と能力のある林業経営者に経営委託する仕組みであり、これまで林業経営に適しているにもかかわらず、経営管理をせずに放置されていた森林を経済ベースで活用し、地域の活性化や地域住民の安心・安全に寄与することが期待される制度であることを説明されました。

また、これまでの補助事業とは違い、市町村によって進めるスピードは異なるものであるが、まずは、やれるところから始めて、感触を掴んでいくことが大事であることを述べられました。

今後は、森林環境税(年額千円)が徴収される令和6年前後に、報道関係等で注目されることが想定されることから、森林環境譲与税の使途については、十分注意されるよう市町

村担当者にアドバイスされています。

また、県では今回の研修会を皮切りに、「新たな森林管理システム」の受け皿となる地域の林業経営者の体制強化を図っていく研修会を開催する予定です。意欲と能力のある林業経営者を希望する事業者等の皆様は、是非ご参加ください。



森林経営管理制度研修会の様子

◆おわりに

県では推進協議会を通して、新たな森林管理システムの進捗や他県の運営状況等、本事業の実施に関する情報を提供すると共に、各市町村及び林業事業者等への支援を一層進めていくこととしております。

〔県森林ノミクス推進課〕



みどりのページ

郷土の名木・古木等
保全事業の実施に
つなぐ

郷土の名木・古木等保全事業
交付決定一覧表

所在地	名木・古木等の名称	採択額 (千円)
上山市	竜沢の桜	500
寒河江市	越井坂のアカマツ	500
白鷹町	八乙女種まきザクラ	500
鶴岡市	宮泉寺のヒサカキ	500
合計		2,000

郷土の名木・古木等保全事業は、県または市町村から指定を受けた天然記念物の樹木を対象に、県内の樹木医の方々からの協力を得て保全を行う助成事業で、平成28年度から実施しています。

今年度は、これまでで最多の15件の申込みがありました。事前審査と樹木医による診断を経て、8月に行われた選考委員会により今年度の実施対象木4件が決定しましたのでお知らせします。

各樹木の保全措置は、診断を担当した樹木医の指導のもと、実施されます。

緑の募金公募事業の
交付決定につなぐ

県民の皆様からご協力いただいた「緑の募金」は、森林の整備や身近な緑を増やす活動などに活用しております。一般から事業を募る「緑の募金公募事業」については、次の2つの区分で募集を行いました。対象事業を広げたことに加え、改元を記念しての植樹などもあり、昨年度を大きく上回る申請がありました。

8月に行われた選考委員会により、今年度の採択事業が決定しましたのでお知らせします。

引き続き、緑の募金へのご協力をよろしくお願いたします。

◆森林整備・緑化事業

- 1 内容 森林整備活動や緑化イベント等
- 2 対象 民間の非営利団体
- 3 金額 1件あたり上限20万円
- 4 対象経費 資材費、保険料等

◆植樹支援事業

- 1 内容 緑化推進や環境教育を目的とした樹木の植栽
- 2 対象 民間団体、学校等
- 3 金額 1件あたり上限10万円
- 4 対象経費 苗木や標柱・看板等の資材費のみ

〔(公財)山形県みどり推進機構〕

緑の募金公募事業 交付決定一覧表

単位:千円

市町村	申請団体	事業概要	採択額
①森林整備・緑化事業 (1件あたり上限20万円)			
山形市	山形県環境保全協議会	鶴岡市内の里山での下刈り等の森林整備活動	180
新庄市	山形県林務職員村農同窓会	山形県立村山産業高等学校旧見本林の整備と在校生との植樹活動	164
飯豊町	手ノ子区協議会	荒廃した採草地进行緑化し、花木のある里山に整備	180
三川町	庄内森とみどりのフェスティバル実行委員会	ブルーベリー苗木を配布する緑のプレゼント	180
小計			704
②植樹支援事業 (1件あたり上限10万円)			
山形市	学校法人 山形県つのぶえ学園	千歳認定こども園東側園庭にスモークツリー、アーモンドを植樹	74
山形市	嶋ほいくえん	嶋ほいくえん園庭にクヌギを植樹	33
尾花沢市	清流と山菜の里 ほその村	やまがた百名山御堂森登山道入口駐車場にオオヤマザクラを植樹	83
新庄市	山形県立新庄養護学校PTA	学校敷地内にブルーベリーを植樹	81
金山町	社会福祉法人 陽だまり	認定こども園めぐたま園庭にケヤキ、トチ、ヤマボウシを植樹	99
米沢市	米沢ライオンズクラブ	大森山森林公園内にサクラを植樹	100
米沢市	NPO法人 斜平山保全活用連絡協議会	斜平山周辺の山域にサクラを植樹	72
高島町	山形県立高島高等学校PTA	学校敷地内にカワツザクラを植樹	90
白鷹町	羽黒の森を守る会	山口地区内羽黒の森にアカマツを植樹	64
小計			696
合計			1,400



— 緑の募金にご協力いただいた企業・団体のみなさま (R1. 8. 1~9. 30) —

(山形県みどり推進機構取扱い分)

みどりのページ

(株)アールテック、(株)アーレスティ山形、(有)青木建材、秋保建設(株)、曙ブレーキ山形製造(株)、(株)アサヒ技術、旭自動車(株)、芦野工業(株)、荒生木材(有)、有賀建設(株)、(有)アルファ設計、飯鉢工業(株)、五十嵐工業(株)、池田木材(株)、(株)伊藤造園土木、(有)今川自動車商会、(有)入野商会、(有)羽越グリーンサービス、(有)エコファーム長井、(株)エヌイーエスコポーレーション、M木工、(株)王祇建設、大沢林業(株)、(株)太田製材、(株)オオバ、(株)小川建設、置賜クリーン設備(株)、(有)置賜ビルメン、おきたま木材乾燥センター(株)、(株)奥山建設工業所、(株)小澤商店、ガールスカウト山形市協議会、海藤林産、(株)カキザキ、(株)柿崎工務所、笠原建設工業(株)、(株)春日測量設計、勝川建設(株)、(有)門協産業、(株)金沢総合コンサルタント、(株)カナル、(株)カナン、(有)金子商事、(株)菅野測量設計事務所、(株)北山建設、(株)協同測量設計センター、(有)桐生建設、工藤石油店、(株)工藤測量設計、(有)くまがい、(有)クリーンセンター七五三、(有)県南エコサービス、(有)厚生社、(有)小関興業、(有)後藤グリーン商会、(有)後藤竹材店、小林防護工事(株)、(株)小松建設、コマツ山形(株)、(株)コヤマ、斎藤建設(株)、蔵王食品(株)、酒井鈴木工業(株)、(株)寒河江技術コンサルタント、(株)寒河江測量設計事務所、(株)佐々木建設、(株)佐藤組、佐藤建設工業(株)、(株)佐藤防災、(有)山栄測量設計、三協コンサルタント(株)、(有)三幸園、(株)サンユー技研、(株)三和、三和油脂(株)、JA鶴岡、JA全農北日本くみあい飼料(株)、(株)ジャワ商会、(株)十字電子、城東機械製造(株)、庄内赤川土地改良区、(株)荘内銀行県庁前支店、城北電気工事(株)、伸栄伝導機工(株)、新庄土木(株)、(有)真和技建、新和設計(株)、(株)菅野測量設計、須川工業(株)、(株)菅原工務店、(株)菅原工務所、(株)鈴木工務店、(株)成和技術、(株)大栄、(株)ダイユー、(株)大和エンジニア、大和工営(株)、(有)高菊林業、高島電機(株)、(株)タカハシ電工、高橋林産、(株)タカハタ電子、(有)高万商店、(株)高良山形(営)、(株)滝の湯ホテル、(株)田村測量設計事務所、タンノ清掃興業(株)、中央清掃(有)、(株)中幸製作所山形工場、鶴岡ガス(株)、TPR工業(株)、テルス(株)、(有)天童クリーン産業、(有)天童工業、(株)天童木工、東北エプソン(株)、(有)東北環境総合サービス、(有)東北紙商、(株)東北消防設備、東北シルク(株)、東北ナノテック(株)、東北銘醸(株)、(株)東北緑地造苑、十和建設(株)、(株)トーカイ、(株)トーホー、内外緑化(株)、(株)永田プロダクツ、(株)ニクニ白鷹、(有)西長合金铸造所、(株)仁科工務店、(株)沼澤工務店、沼田建設(株)、ハイメカ(株)、(株)畑山、ヒミヤ石油工機(株)、(株)フジミ、(株)双葉建設コンサルタント、(株)フェューメック、文化清掃(有)、(株)本間利雄設計事務所、マックル(株)、真室川森林造成事業(協組)、(株)丸江製作所、(株)マルカ、マルカ林業(株)、(株)マルコウ環境、マルミツ産業(株)、水澤化学工業(株)水沢工場、(株)ムラヤマ、村山ロータリークラブ、明立工業(株)、(株)メカニック、最上川土地改良区、(株)最上振興、もがみバイオマス発電(株)、(株)モリヤ、(株)やいち、(有)安野測量事務所、山形いすゞ自動車(株)、(協組)山形ウッドエネルギー、山形オートリサイクルセンター(株)、山形ガス(株)、(株)山形環境エンジニアリング、山形環境保全(協組)、(株)山形銀行県庁支店、山形空港ビル(株)、山形空調(株)、山形警備保障(株)、(公財)山形県産業技術振興機構、山形県商工会(連)、山形県職業能力開発協会、山形県信用保証協会、山形県森林土木建設業協会、(一社)山形県測量設計業協会、山形県中小企業団体中央会、山形県土地改良事業団体(連)、山形酸素(株)米沢(営)、山形食品(株)、(株)山形新聞社、山形信用金庫、(株)山形テレビ、(株)山形道路、山形トヨペット(株)、山形富士電機(株)、(株)山形ミートランド、山形三菱自動車販売(株)、(株)山南自動車、(株)ヤマモト、山和建設(株)、(株)ユアシス、(株)横山測量設計事務所、芳野YMマシナリー(株)山形工場、(有)緑商、ロータス山形(株)、(株)渡部砂利工業所、(株)渡辺商店

(敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました。

普及情報

高性能林業機械

フェラバンチャーザウルスロボによる 森林技術者等技術向上研修会の開催

◆はじめに

森林作業道をはじめとする林内路網は、木材を安定的に供給し、森林施業を効率的に行うための林業の最も重要な生産基盤ですが、本県では未だ十分とはいえません。そこで、作業道作設の効率化と低コスト化を図るため、高性能林業機械を活用した作業道作設に関する研修会を行いましたのでご紹介します。

◆研修会の概要

○日時

9月24日 10時～16時

○場所

西川交流センターあいべ、

森林研究研修センター試験実習林

○参加者

林業事業体職員 21名

県立農林大学校学生 19名

県森林技術職員 9名 計49名

○使用機械

フェラバンチャーザウルスロボ

○講師

(株)松本システムエンジニアリング

(使用機械開発会社)

代表取締役社長 松本 良三氏

◆研修の実施状況

フェラバンチャーザウルスロボは、立木の伐倒作業と同時に路網作設、グラップル作業を1台で行うことができ、県内での導入が進んでいる高性能林業機械です。

午前中、開発の経緯と、仕様・操作方法について講義を受けた後、午後は試験実習林に移動し、松本社長に同行した熟練オペレータによるデモンストレーションを見学した後、操作体験へと移りました。

殆どの参加者は初めての経験で、伐倒↓玉切り↓除根↓土工↓伐倒と手際よく進んでいく作業性の高さに驚きの声が上がっていました。

デモ中には、松本社長に対して、どの程度の直径まで伐採が可能か等の機械の基本性能や価格、メンテナンス費用、伐採効率の向上と費用対効果、デモ終了後は、熟練オペレータに対して、作業上のコツや注意点等について多数の質問が寄せられました。

操作体験は、非常に好評で、「思ったより良く伐れる」、「導入に対し非

常に魅かれる」など高評価の意見が聞かれました。実際の作業性については、開発会社のホームページ動画をご覧ください。

◆おわりに

高性能林業機械の更なる普及啓発を図るため、本研修終了後3日間、操作体験会を実施したところ14名の参加者があり、高性能林業機械への関心の高さが窺えました。

今後も様々な高性能林業機械に関する研修を行っていきたいと考えておりますので、ぜひご参加ください。



〔森林研究研修センター〕

森林資源の有効活用を目指す

安楽城林産株式会社

○立木買入・伐採 ○素材生産・各種原木販売

〒990-5522 山形県最上郡真室川町大字差首鍋4-50

TEL 0233-63-2819

FAX 0233-63-2422

森の人紹介

森林整備で地球環境を守る

伊藤 信 一さん



10月5日、舟形町で開催されました「最上地域森の感謝祭2019」において森林・林業功

◆プロフィール

伊藤さんは、舟形町生まれで、昭和54年から林業に携わり、舟形町内外の森林整備や木材生産に従事してきました。平成27年に東北ウッドカッター株式会社を設立し、代表取締役就任、前身の伊藤林業より40年間、最上地域の林業振興の担い手として活動を行っています。

◆現在の取り組み

平成29年からは新庄市鳥越に事務所を移し、現在、従業員数は9名、若手から中堅、ベテランまで幅広い年代となっているのが特徴です。また、高性能林業機械を2台保有し、

素材生産業や立木売買を主に、事業規模は素材生産量で年間約1万m³を超えています。将来的には年間2万m³を目標としています。

伊藤社長自らも「林業技士」「フォレストマネージャー」の資格を持ち、現場での伐採から素材生産までを行っています。林野庁の「緑の雇用事業」を活用し、若手職員の育成にも取り組んでおり、今年度2名の職員を研修に参加させています。

また、会社の業務のほか、地域活動として農地等の維持管理活動を行っています。平成11年から平成30年まで長年にわたり農事実行組合長を務め、林業関係だけでなく、地域の農家の代表として地域をけん引する存在となっています。

◆今後の期待

今後、国有林を中心とした事業展開に加え、民有林の事業にも本格的に参入するため、高性能林業機械を新たな導入し、森林経営計画の策定も進めたいと意欲的に取り組んでいます。地域の森林整備や林業事業体のリーダーとして若手の育成など更なる活躍が期待されます。

〔最上総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

次世代を担う若きリーダー

金野 伸さん



飯豊町にある山形県飯豊町少年自然の家に勤務し、源流の森の森林インタープリターとして活動されている金野伸さんをご紹介します。

金野さんは、宮城県出身で、大学の入学を期に山形県へ。山に囲まれ、四季折々の優美な姿に魅了され、登山を始めました。登山を通じて、山形県の自然環境や森林などに興味を抱き、源流の森のインタープリターと知り合い、活動に参加しました。

活動をしていた飯豊町中津川地区は、雄大な飯豊山の麓で清流白川が流れる自然豊かな場所です。金野さんは、人情ある人々と接するうちに静かに時間が流れ、心穏やかに過ごせることに気づき、飯豊町に定住することにしました。

現在の勤務先での主な業務は、施設周辺の森林整備や草刈り等に従事

しております。以前は、森林組合の作業班として主に造林の業務に携わっており、その時に得た経験が、今の業務に役立っているそうです。

森林整備や草刈り等により、森林病害虫による枯損木や倒木、蘖化状態を解消し、活動空間を確保した森林に子供たちが自由に入って、遊んでいる姿を見ることが仕事のやりがいを感じるそうです。

普段、森林・林業について、何か思っていることについて尋ねたところ、「以前に比べて、担い手が減少していることに懸念を抱いている。森林の恩恵を享受するには、人間の手による管理なくては始まらない。こういった森林や林業に関する技術や知見に対する世間の興味の薄さや評価の低さが更に担い手不足に拍車をかけることを危惧している。」という回答がありました。

将来の夢は、同じ志をもつ仲間をつくり、仕事を通して、人々に森林や林業、自然環境について、人々に何か考えるきっかけを与えたいそうです。今後も飯豊町少年自然の家での森林整備等にご尽力をいただき、森林や林業、自然環境面での更なる活躍を期待しております。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

林道二口線が 全線開通しました!

◆平成28年以來の全線開通

山形県と宮城県を結ぶ林道二口線（総延長19km、うち山形県側9km）が、8月9日（金）に開通しました。山形市山寺から宮城県仙台市太白区秋保町に通ずる本線は、平成28年度以降山形県側の区間のみを開放してきましたが、この度、宮城県側の舗装工事が完了したことから、4年ぶりの全線開通となりました。

これにより、山形市山寺から仙台市秋保町の「秋保ビジターセンター」までの所要時間は約1時間となります。開通期間は11月上旬までの予定で、冬期間は通行止めとなります。

◆林道二口線の概要

二口線は、昭和43年度に峰越連絡林道として工事を着手し、昭和60年度に全線開通しました。

その後は、法面改良や舗装工事を進め、時には融雪や台風などによる豪雨で路肩や法面が被災したこともありましたが、その都度復旧を図り、通行を確保してきました。

本線は、森林整備による林業の振興はもとより、幹線道路が被災した

場合の宮城県への連絡道路、両県の交流人口を推進する道路としての役割も担っています。

◆通行に際しての注意

林道は、一般の公道と異なり車道が一車線（全幅員4m）となっております。道幅が狭く、急勾配や急カーブの箇所がありますので、通行時は対向車とのすれ違いや、下りでの速度の出しすぎに十分に注意して、安全運転を心がけて走行してください。

宮城県側で行われた開通式



村井嘉浩 宮城県知事(前列左から3人目)
松田義彦 村山総合支庁長(後列左から3人目)らがテープカット

〔村山総合支庁森林整備課〕

むらやま版木育推進事業

「県民の森森林学習展示館」に
木育拠点施設を整備

◆はじめに

県では人と木や森林との関わりを主体的に考える豊かな心を持つ人づくりを目的に「やまがた木育推進方針」を策定し、木育の推進を図ることにしています。村山地域においては、県民の森が「木育推進方針」の中で木育拠点施設に定められているものの施設が未整備のため、今年度から整備に着手しましたのでご紹介します。

◆令和元年度の取組

県民の森「森林学習展示館」の老朽化し破損した修理困難な展示ブースを一部撤去して、木育展示ブースに衣替えを行い学習展示館の機能強化を図りました。具体的には壁の一部を木質化し、空いたスペースには木製遊具を配置し、誰でも木の温もりを体感できる空間にしました。

◆令和2年度の計画

今年度は、木育拠点施設のベースが完成しましたが、更なる木育体験の機能強化拡充のため、木育展示・体験ブースの設置面積を増やすなどの対策を実施していきます。

◆おわりに

森林学習展示館は建築されてからもう既に四十年近く経過しました。今後は展示館の機能を保ちつつ木育拠点として整備し、学習館の機能強化を十分に発揮させていきます。

〔村山総合支庁森林整備課〕



木製のオブジェ



木育広場

最上ぎのこの振興に向けた取組みについて

◆はじめに

最上地域のきのこ生産量は、県全体の約7割を占め、県内はもとより全国でも有数の生産地になっていきます。しかし、産地間競争の激化や生産者の高齢化等により生産者数・生産量は減少傾向にあります。

そこで、最上総合支庁では産地強化やぎのこの消費拡大に向けて様々な取り組みを展開しています。

◆JGAP研修会の開催

JGAPは、第三者機関による食の安全や環境保全に取り組み農場の認証制度で、最上総合支庁では取得推進に向け、昨年度から研修会の開催に取り組んでいます。

今年5月には、有限会社マッシュ



JGAP研修会

ハウス最上(最上町)、農事組合法人オークフアーム(鮭川村)が、本県の特用林産分野で

は初めてJGAP認証を取得しました。

さらなる取得の推進や理解醸成に向け、10月1日、JA中野市(長野県)きのこ課の篠田課長を講師に迎え、研修会を開催しました。

研修会では、JA生産部会でJGAPを取得するまでの取り組みや今後の課題等についてお話をいただき、大変有意義なものとなりました。

◆もがみきのこレシピの開発

きのこの消費拡大に向け、地元の高校生と連携し、きのこ料理のレシピの開発や産直等にレシピカードを配布するなどの取り組みを行っています。

今年度は、レンジを使った簡単レシピをテーマに、新庄東高校家庭科部の生徒と連携したレシピ開発に取り組んでおり、試食会の実施等によるPR活動を行う予定です。

◆まとめ

今後最上ぎのこ生産の振興と産地の強化に向け取り組みを展開してまいります。

〔最上総合支庁森林整備課〕

「最上地域森の感謝祭2019」を開催

◆はじめに

最上地域の豊かな自然に感謝し、「県民参加の森づくり」を一層推進するため「最上地域森の感謝祭2019」が令和元年10月5日(土)に舟形町にある「舟形若あゆ温泉ふれあい広場」で250名の参加のもと開催されました。

◆森の感謝祭

今回の開催テーマは「歩みだそう美しい森への第一歩」です。式典のオープニングアトラクションを務めた「幅神楽」の上演をもって開幕しました。その後、森づくりリレー旗の伝達を行い、最上地域の森林・林業功労者として伊藤信一氏および長尾町内会へ表彰状の授与が行われました。

式典の後、最上地域内緑の少年団と舟形町内の各種団体をはじめとした招待団体の協働による木製ベンチの製作を森づくり活動の一環として行いました。最上町在住の樋口裕行氏によるチェンソーアートの実演では、舟形町の名産物である「鮎」を題材として製作していただきました。テントブースでは、緑の少年団員が

木工クラフト体験やネイチャーゲーム・森のホームステイを体験しました。

また、感謝祭当日の10月5日(土)および6日(日)には、

県内初展示である秋田県由利本荘市にある「鳥海山木のおもちゃ美術館」からの木のおもちゃの出張展示を行いました。両日ともに大人から子供まで温もりのある木のおもちゃに触れる体験を行いました。



本感謝祭の参加者からは「最近ではあまり触れることがなくなった木に子供たちが触れる機会がもつと欲しい」、「子供の頃、木で囲まれた生活が当たり前だった。今回の体験から子供たちにも木への興味を持たせたい」などの意見がありました。

◆おわりに

前日までは台風の前報があり天気不安がありましたが、滞りなく開催することができ関係者のご努力に感謝申し上げます。

〔舟形町農業振興課〕

おきたま森の感謝祭2019を開催

テーマ「木を植えてもらった愛情 恩返し」

置賜地域の緑豊かな自然がもたらす恩恵に感謝し、森を守り・育て・活かすことの重要性を広く訴える、「おきたま森の感謝祭2019」が

9月28日(土)、南陽市竹原にある「南陽市総合公園」を会場に、緑の少年団や梨郷小学校児童など455名の参加のもと開催されました。

感謝祭は、アルプホルンクラブの皆さんによる山々に響き渡るやまびこをイメージした「エンゲルベイガー・エコー」の演奏を皮切りに、地元梨郷小学校全校児童による合唱「大切なもの」のオープニングアトラクションでスタートしました。



南陽市立梨郷小学校 合唱



森づくりリレー旗引継ぎ

式典では、「緑化功労者として」「龍樹の里づくり推進委員会」、「日鉞里山・龍樹の森づくりの会」及び「吉野石膏の森づくり委員会」が表彰された他に、置賜地区の緑化運動・育樹運動標語・ポスター原画コンクールの入賞者14名も表彰されました。

森づくり活動では、企業や緑の少年団が中心となり、龍樹の森の遊歩道に木質チップを敷き詰めました。また、会場では、ネイチャーゲームを行ったほか、森のお守りや箸づ

くりの「置賜の木で学ぶ木育体験」を実施するなど、森林や木材に親しむ様々なイベントを開催し、参加者は終了時間ギリギリまで楽しんでいました。

この感謝祭をきっかけに、地域の皆様に森づくりの輪が広がることを期待します。

(置賜総合支庁森林整備課)



緑化功労者



標語・ポスターコンクール



遊歩道への木質チップ敷き詰め

地域の暮らしをしっかりとバックアップ!!

総合電設業、木質燃料製造販売、一般廃棄物・産業廃棄物リサイクル事業

(株) 渡会電気土木

代表取締役社長 武田 啓之

本社/鶴岡市下山添字一里塚36

☎0235-57-2454(代) FAX 0235-57-2345

環境事業部・田代工場/鶴岡市田代字広瀬16-2

☎0235-57-4778(代) FAX 0235-57-4786

庄内工場/東田川郡庄内町狩川字砂山外6-4

☎0234-28-8288(代) FAX 0234-28-8287

営業所/酒田・山形・米沢・新庄・仙台・酒田共同火力工事事務所



木質パレット
あります!!



新たな森林施業の提案と取組み

地上レーザー測量システムの活用

◆はじめに

庄内管内において、酒田市の八幡地域は林業が盛んな地域の一つとなっております。その中で株式会社鳥海フォレストは地域の複数の素材生産事業者の森林経営計画作成のサポート、森林の調査、集約化等を行っている今までに無い事業者です。

森林経営計画作成や提案型集約化施業等素材生産業者が不得手とする分野で連携・支援する事で円滑な素材生産や木材の安定供給が可能となるようなサプライチェーンを構築するため、鳥海フォレストは設立されました。

この度、鳥海フォレストが県内初となる地上レーザーによる森林三次元計測システムOWL「アウル」を導入し、森林調査を行っていることから、その取り組みについて紹介します。

◆OWLとは

従来の森林調査は、地形測量、伐採木の毎木調査（樹種、樹高、胸高直径等）を実施するため、様々な計

測機器が必要なうえ、調査に相当な人工数と日数を要する大変な作業です。

これに対し、OWLは赤外線レーザーを利用し、地形、樹高、位置、胸高直径、樹木の形状、材積がこの1台で同時に計測できます。装置は本体重量が3キロと軽量で、一人で取り扱う事ができます。

計測は、本体を携行し林内を歩きながら、約10mメッシュでレーザーを照射し、データを取得します。レーザー照射にかかる時間は1箇所当たり約1分程度と短く、作業に慣れば、1ヘクタールを半日で調査ができるそうです。

OWLを使用することで、林内の樹木一本一本の配置状況や形状を計測した3D森林地図を作製することができます。3D地図は、パソコンの画面上で自由に動かし、任意の視点から森林の状況を見ることができるようになります。さらに、OWLでは、計測データから樹木の本数や材積等の森林資源量を同時解析することができま

◆使ってみての感想

森林調査の効率が飛躍的に向上し、作業の効率化が図られました。森林内の樹木の配置や樹木の形状が3Dで表示されるため、森林所有者への施業提案や提案内容等のプレゼンテーションに利用しており、非常に分かりやすいと大きな反響があったそうです。さらに、実際の地形や地山傾斜を分析し、作業道の予定路線を画面上で検討する事ができるようになりました。



OWL本体

◆今後の課題

曲がりの大きい材は胸高直径の大きい木として認識してしまうことと、レーザーの照射の支障となる低木等の全面的な刈払いが必要なことが課題となっております。

また、システムが高価なため、導入時の経費負担も課題となります。

◆おわりに

これまで、事業者の経験と勘に頼る部分が多かった森林調査について、こうした新しい技術を導入する事により、客観的なデータと分かりやすい資料等が容易に作れるようになってきました。これからも、積極的に提案型施業を進めることで、地域林業のますますの振興が図られる事を期待します。

〔庄内総合支庁森林整備課〕



作業状況



3D森林地図

列状間伐で 更なる効率化

低コストで安全に間伐材を生産する方法として列状間伐が提唱されています。しかし、県内の民有林では効果的な導入方法が不明などの理由から普及していない現状でした。

そこで、林業公社では県や森林組合の協力を得て試験的に列状間伐を導入し、その効果を検証することとしました。

試験地は内陸と庄内の2か所です。内陸の林地は50年生のスギで、面積は約1ヘクタール、庄内の林地は90年生のスギで、面積約8ヘクタールでした。

列の設定は「10m残5m伐」とし作業道の上下に列を配し、列内をチェーンソーで伐採。全木のままウインチで作業道周辺に集材。これをプロセッサで集中的に造材し、フォワーダで土場に運びました。

生産性では、庄内で約1割向上し、内陸では一日一人当たり約11立方mを達成しました。また、間伐材の利用率も2割向上しました。

実施した森林組合からは、選木に

迷わない、連続して作業ができ効率が良い、かかり木が無く安全などの評価が聞かれました。

一方、列の設定に時間を要する、病虫獣害を受けた森林では被害木が残ってしまう等の課題もあります。

いずれにしても、列状間伐の特性を最大限に活用するには、現地の地形や森林の状況等様々な条件を勘案する必要があります。林業公社では今回の検証をもとにマニュアルを作成し、関係者に提供することで列状間伐の普及と県内林業の発展に取り組んでいきます。

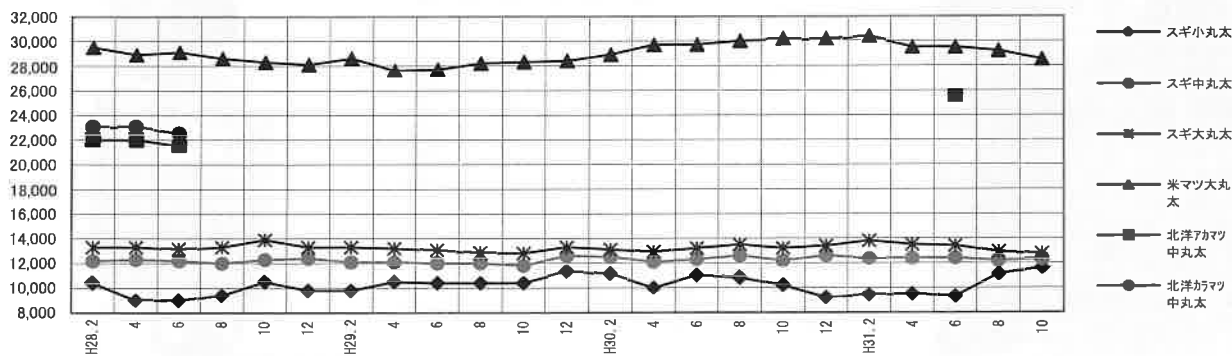
（公財）山形県林業公社



庄内での列状間伐(鶴岡市)

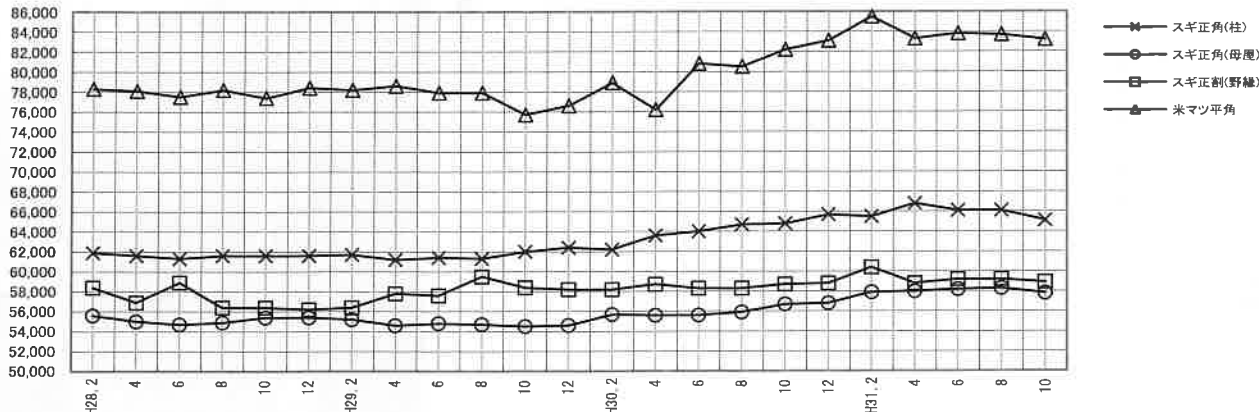
丸太価格の推移

(円/m³)



製材品価格の推移

(円/m³)



森林やまがた 一八四号

令和元年十一月一日発行(隔月発行)
編集・発行 山形市松栄一丁目五番四一号 山形県森林協会

監修

山形県農林水産部
印刷所 渡辺印刷

定価 二八八円